

若年性認知症って ご存知ですか？

～認知症は高齢者にだけ発症する病気ではありません～

若年性認知症はまだまだ社会の認識が不足している病気です。
ご家庭で、職場で、地域で、少しでも理解が広がること、また、
若年性認知症の人とその家族が、認知症と上手に向き合い、自らの
生き方を考え、暮らしを工夫しながら、今までの生活を続けて
いくことを目指します。



愛 媛 県



愛媛県
イメージアップキャラクター
「みきやん」

若年性認知症とは

認知症とは、いろいろな原因で脳の神経が減少し、覚えられなくなったり、思考力や判断力が低下したり、時間や場所、人が分からなくなったりするために、生活に支障がでてくる病気です。

認知症は、高齢者の7人に1人が発症していますが、65歳未満で発症した場合を「**若年性認知症**」と呼び、18～64歳ではおおよそ2千人に1人の方が発症します。

若年性認知症は、働き盛りで、まさに社会や家庭で重要な役割を担っている時期に発症するため、本人はもちろんその家族にも大きな影響を及ぼします。

愛媛県の若年性認知症の数は推計で504人で、働き盛りの45～64歳では約千人に1人の方が若年性認知症者となっています。

(全国の若年性認知症の数は約37,800人)

原因となる疾患は、脳血管性認知症が3人に1人と最も多く、次いでアルツハイマー病が4人に1人となっています。

発症年齢の平均は、50歳前後です。

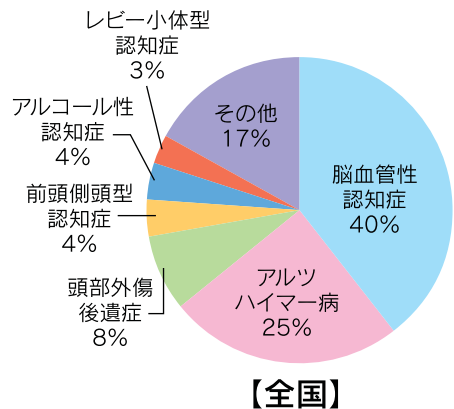
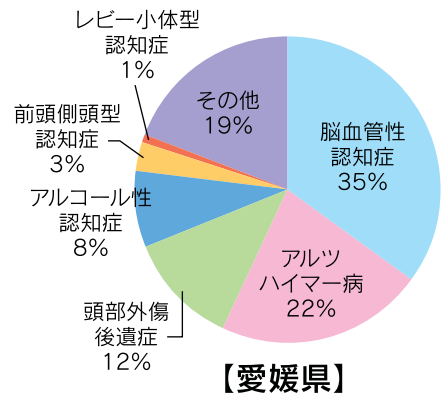
発症から診断がつくまでに時間がかかる場合が多いと言われています。

また、高齢者の認知症は女性に多いのに比べ、若年性認知症は男性に多いのが特徴です。

平成21年3月 厚生労働省研究班
(愛媛県調査:愛媛大学)



若年性認知症の原因疾患の内訳



～こんな点で高齢発症の認知症とは違います～

- 発症年齢が若い
- 男性に多い
- 経済的な問題が大きい
- 今までと違う変化に気がつくが、受診が遅れる
- 受診しても、正しく診断されないことがある
- 体力があり、ボランティアなどの活動ができる
- 利用できる福祉・支援サービスが少ない

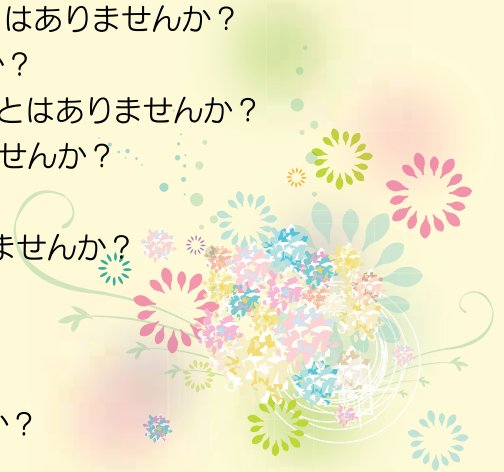
介護者は

- 主として配偶者になることがある
- 高齢の親である場合がある
- 時に複数介護となる場合がある

こんなことはありませんか？

次のようなことが見られたら、若年性認知症の始まりかもしれません。

- 同じことを何度も聞いていませんか？
- 伝言したことがうまく伝わらないと感じることはありませんか？
- 電車・バスで乗る駅や降りる駅がわからないと感じることはありませんか？
- よく知っている道なのに迷ってしまうことはありませんか？
- 通帳、印鑑、財布などをよく失くし、家族が盗ったと思うことはありませんか？
- いつも同じ服を着て、着替えたくないと思うことはありませんか？
- 家電製品の使い方がわからなくなっていますか？
- テレビや新聞を見なかったり、関心がなくなったりしていませんか？
- お風呂に入りたくないと思うことはありませんか？
- 好きだった趣味の活動をしなくなっていますか？
- 鍋を焦がしたり、ガスの火を消し忘れたり、水道の水が出っぱなしになっていることはありませんか？
- 外出したくないと思うことはありませんか？



認知症介護研究・研修大府センター「若年性認知症支援ガイドブック」より

早期発見・早期対応が大切です！

その理由は…

◆ 治る認知症・よくなる認知症があるからです

硬膜下血腫(頭を打ったなど)、脳腫瘍、正常圧水頭症などは、手術や治療でよくなる可能性があります。

◆ 進行を遅らせることができる認知症があるからです

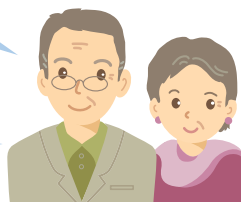
アルツハイマー型認知症は、進行を遅らせる治療薬があります。脳梗塞や脳出血などの脳血管障害による認知症は、再発予防が大切です。

◆ 今後のために、必要な情報を備えておくことができるからです

早期診断によって、自分の病状を理解できる間に自分の病気を知ることができ、将来の生活について考えることができます。本人や家族がじっくり話し合っ、今後の生活環境を整えることができます。

仕事ができなくなっても、これまでの経験を活かして人の役に立ちたいと思っています。

多くの人の理解やサポートがあれば、楽しみを持ちながら生活を続けることができます。



職場や地域の中で、病気を理解して偏見をなくして欲しいです。

ご本人の意見